

1 人口動態

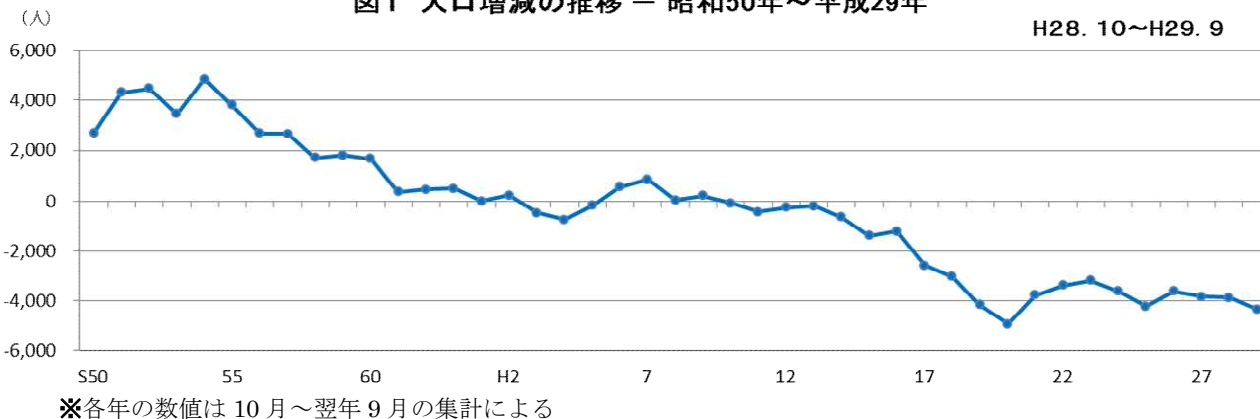
人口増減の推移

前年と比べ4,346人減少し、20年連続の減少となった。

平成29年（平成28年10月～平成29年9月）の1年間の人口動態をみると、自然動態は3,195人減、社会動態は1,151人減、合計4,346人の減少となり、前年と比べると、減少数が484人に拡大した。

人口減少は、平成10年以降20年連続しており、平成13年以降は、自然動態、社会動態とも17年連続で減少している。（図1、統計表第1表）

図1 人口増減の推移 — 昭和50年～平成29年



2 自然動態

(1) 自然動態の推移

前年に比べ3,195人減少し、出生数は過去最少で、死亡数は過去最大となった。

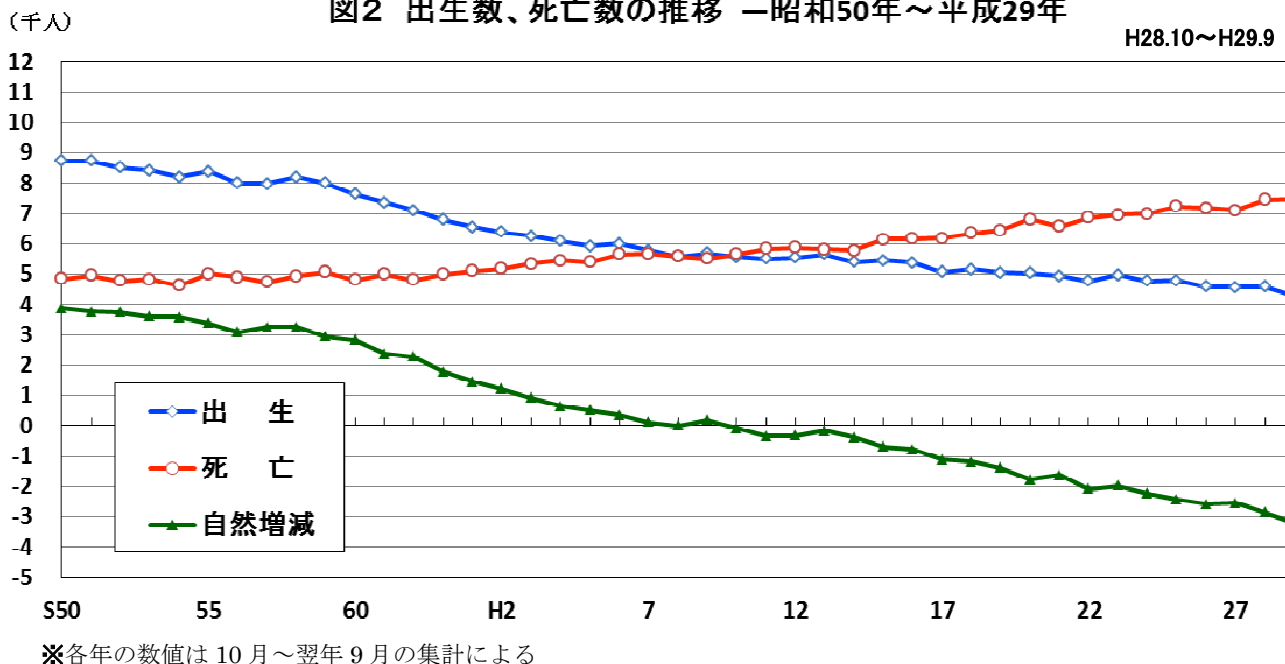
自然動態について、出生数は昭和50年（8,735人）以降減少傾向となり、昭和63年からは6,000人台、平成5年からは5,000人台、平成21年からは4,000人台となり、平成29年は4,272人で前年と比べ324人減少した。

死亡数は、平成2年ごろまでは5,000人前後を推移していたが、それ以降は増加傾向となっている。平成15年からは6,000人台、平成25年からは7,000人台となり、平成29年は7,467人で前年と比べ9人増加した。

自然増減は3,195人の減少で前年と比べ減少数は333人拡大し、20年連続で減少した。

また、昭和50年以降、出生数は過去最少で、死亡数は過去最大となり、自然減少は過去最大となった。（図2、統計表第1表）

図2 出生数、死亡数の推移 — 昭和50年～平成29年



(2) 市町村別自然動態

日吉津村を除くすべての市町で減少

自然動態について市町村別にみると、日吉津村を除くすべての市町で減少している。

自然増減数は日吉津村が7人増加、減少数は鳥取市が778人と最も多く、次いで米子市が392人、倉吉市が280人、境港市が223人などとなっている。

自然増減率（対1,000人比）は日吉津村が2.0%増加、その他の市町は減少で、日野町が24.5%と最も高く、次いで日南町が22.4%、若桜町が19.5%、江府町が18.3%などとなっている。（図3、図4、統計表第2表）

図3 市町村別自然増減数 — H28.10～H29.9

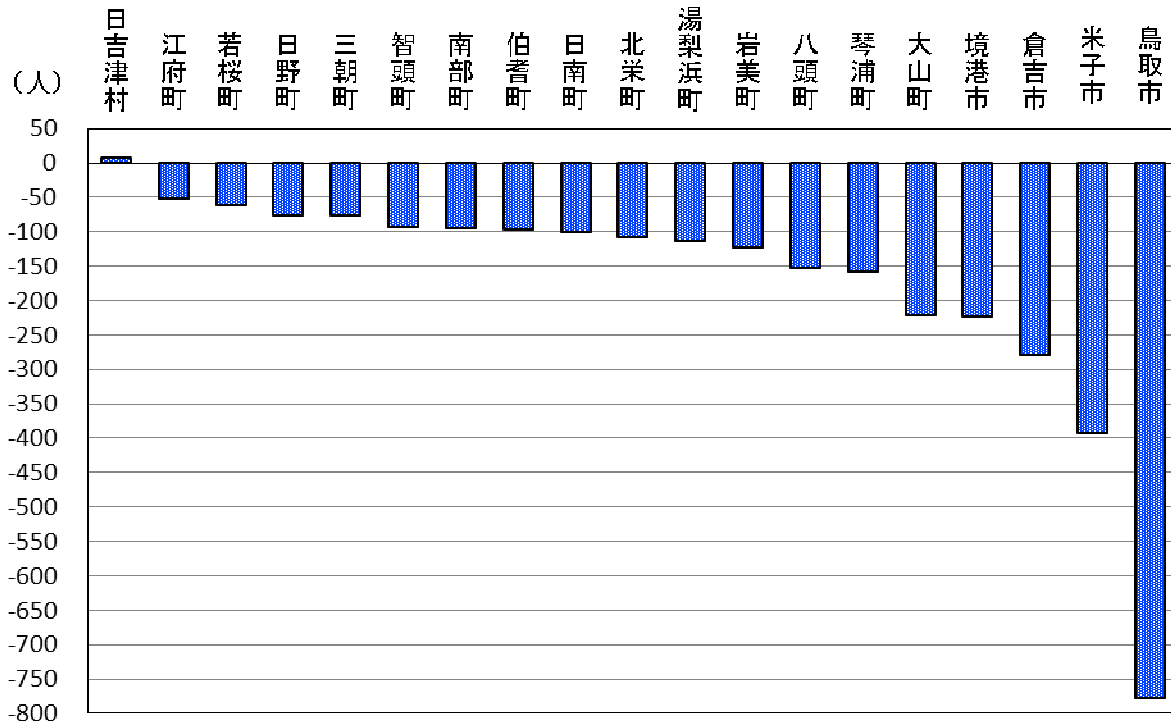
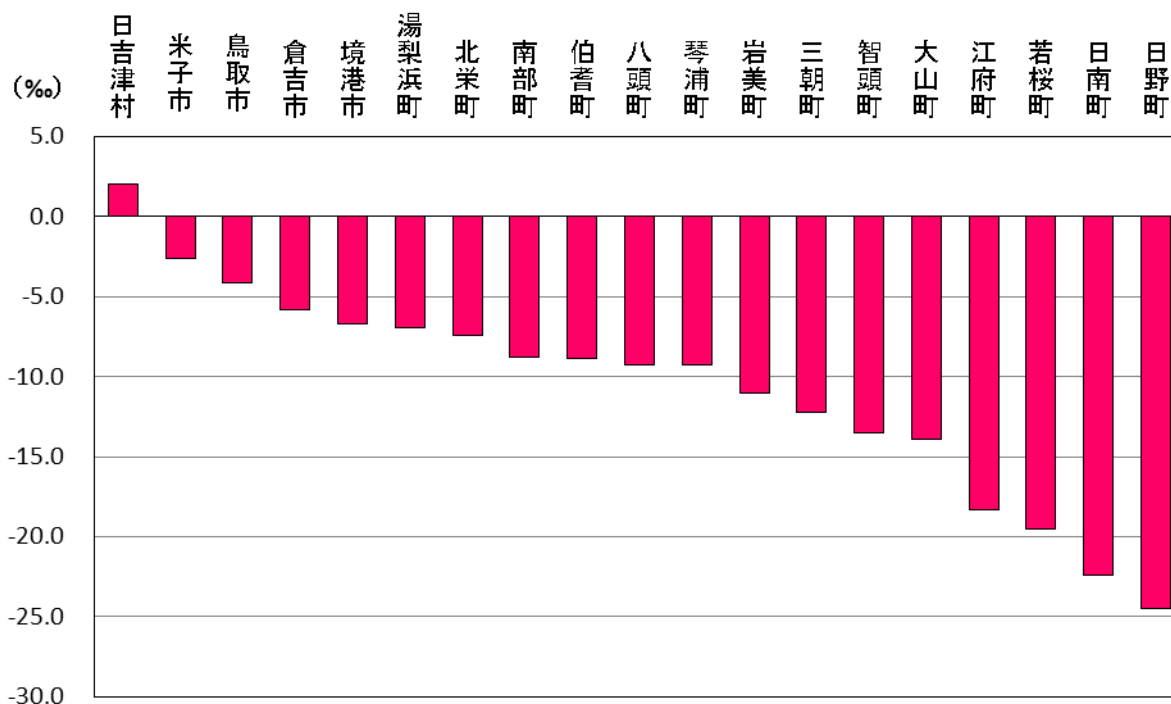


図4 市町村別自然増減率 — H28.10～H29.9



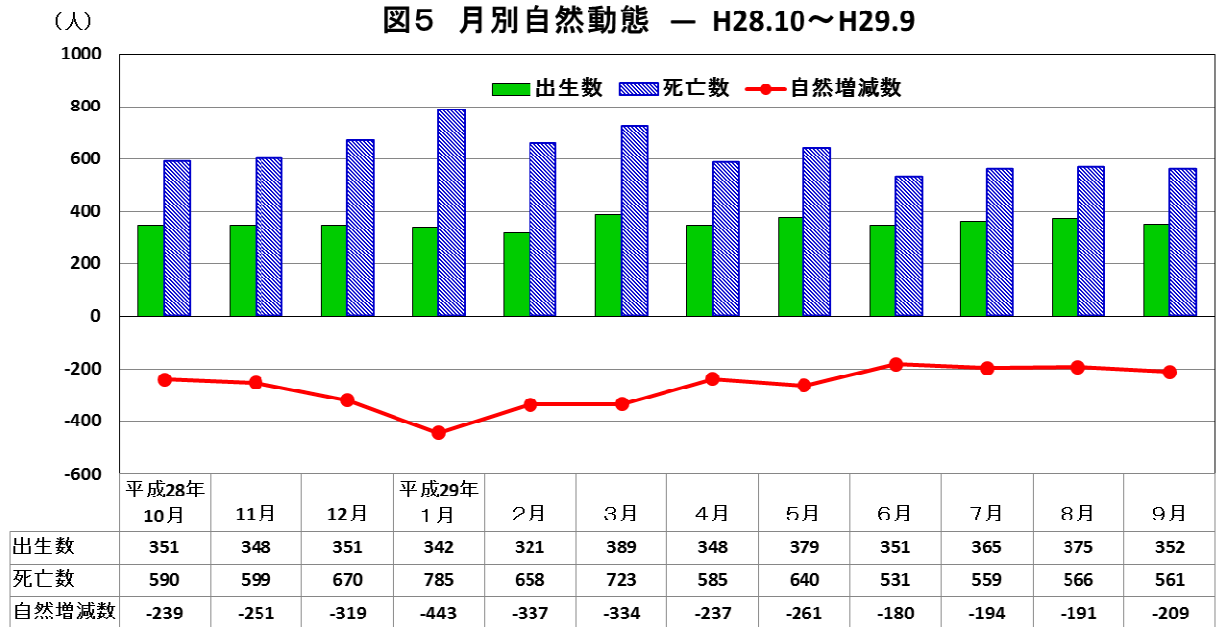
(3) 月別自然動態

すべての月で減少となり、1月の減少数が最も多い

自然動態について、月別にみると、出生数は3月が389人（出生総数に占める割合9.1%）と最も多く、次いで5月が379人（同8.9%）、8月が375人（同8.8%）などとなっている。

死亡数は1月が785人（死亡総数に占める割合10.5%）と最も多く、次いで3月が723人（同9.7%）、12月が670人（同9.0%）などとなっている。

すべての月で減少となり、減少数は1月が443人と最も多かった。（図5、統計表第3表）



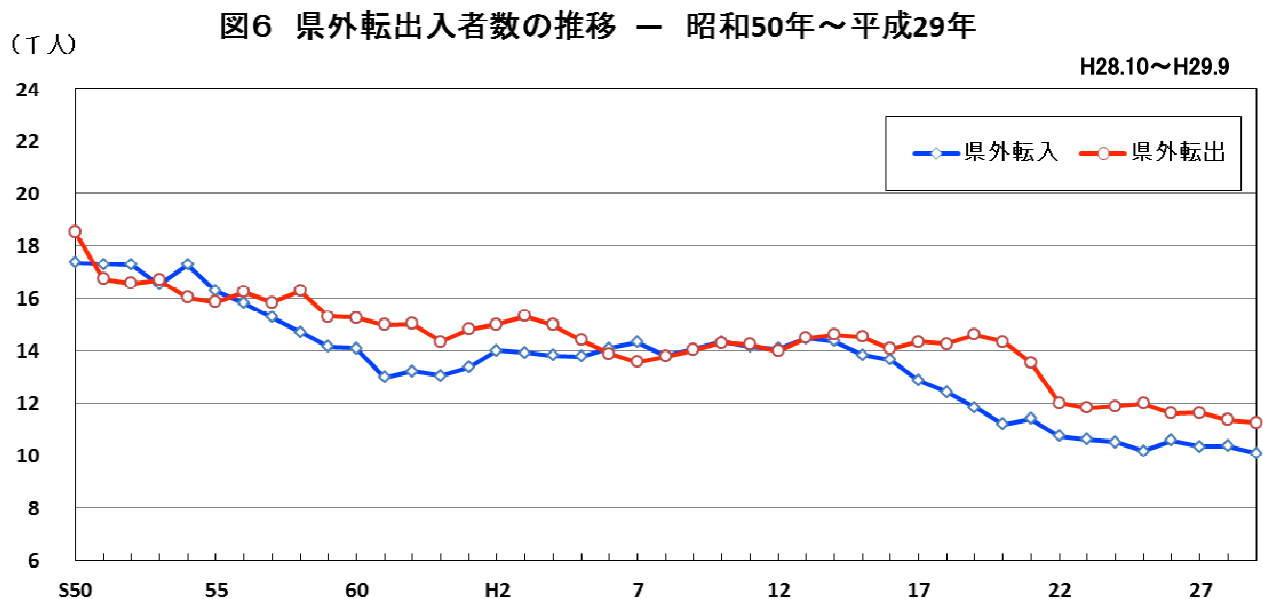
3 社会動態

(1) 社会動態の推移

前年に比べ1,151人減少し、17年連続の減少となった。

平成29年（平成28年10月～29年9月）に県内の市町村間を移動した者（県内移動者）は6,329人、県外転入者は10,119人、県外転出者は11,270人で県外転入者及び県外転出者とも昭和50年以降最小となり、実移動者総数は27,718人で、1,151人の減少となり、17年連続で減少している。

前年と比べると、県内移動者が115人減少、県外転入者が270人減少、県外転出者が119人減少、実移動者総数が504人減少、減少数が151人に拡大した。（図6、図7、統計表第1表、第4表、第5表）



※各年の数値は10月～翌年9月の集計による

図7 社会増減数の推移 — 昭和50年～平成29年



※各年の数値は10月～翌年9月の集計による

(2) 月別社会動態

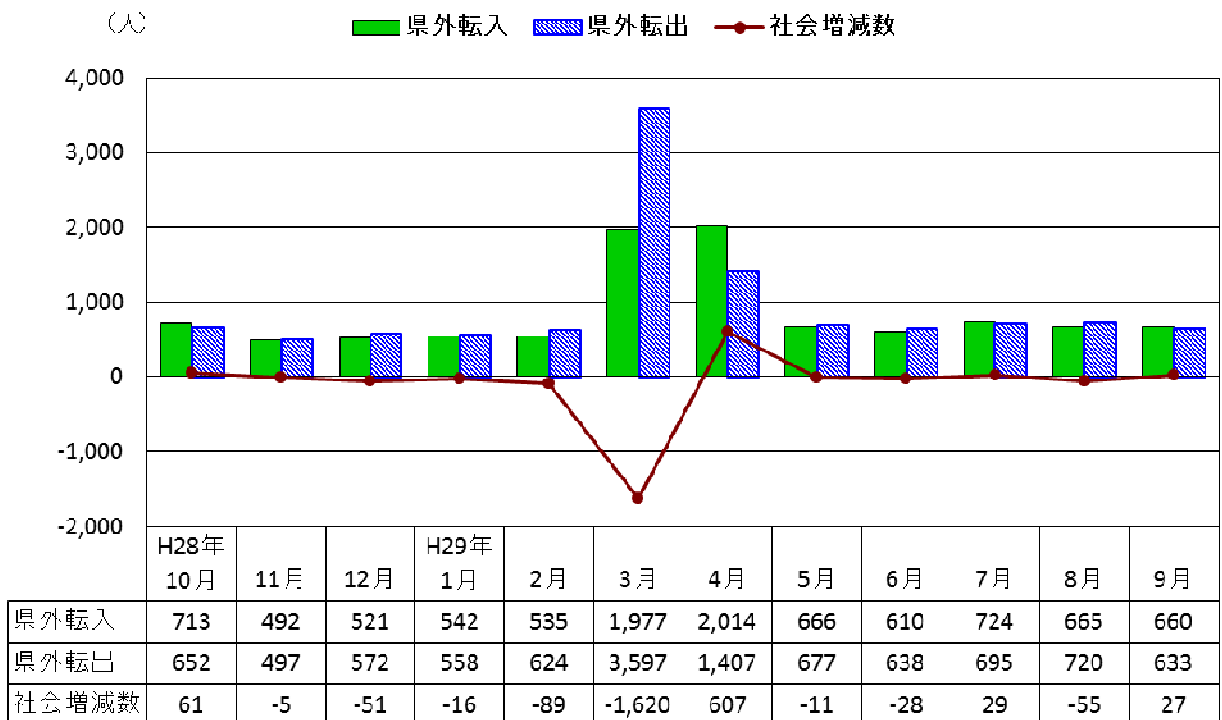
3月及び4月の2か月間で、年間実移動者総数の41.2%を占める

社会動態について、月別にみると、県外転入は4月が2,014人（県外転入総数に占める割合19.9%）と最も多く、次いで3月が1,977人（同19.5%）、7月が724人（同7.2%）などとなっている。

県外転出は3月が3,597人（県外転出総数に占める割合31.9%）と最も多く、次いで4月が1,407人（同12.5%）、8月が720人（同6.4%）などとなっている。

この結果、4月が607人増加し、3月は1,620人減少し、この2か月間で年間実移動者総数の41.2%を占めている。（図8、統計表第5表）

図8 月別県外転出入者数 — H28.10月～H29.9月



(3) 地域別社会動態

県外転出入者数は島根県が最多で、転入が1,319人、転出が1,371人

社会動態について、地域別（都道府県別）にみると、県外転入は島根県が1,319人と最も多く、次いで大阪府が1,002人、兵庫県が883人、岡山県が868人、広島県が837人、東京都が635人などとなっている。

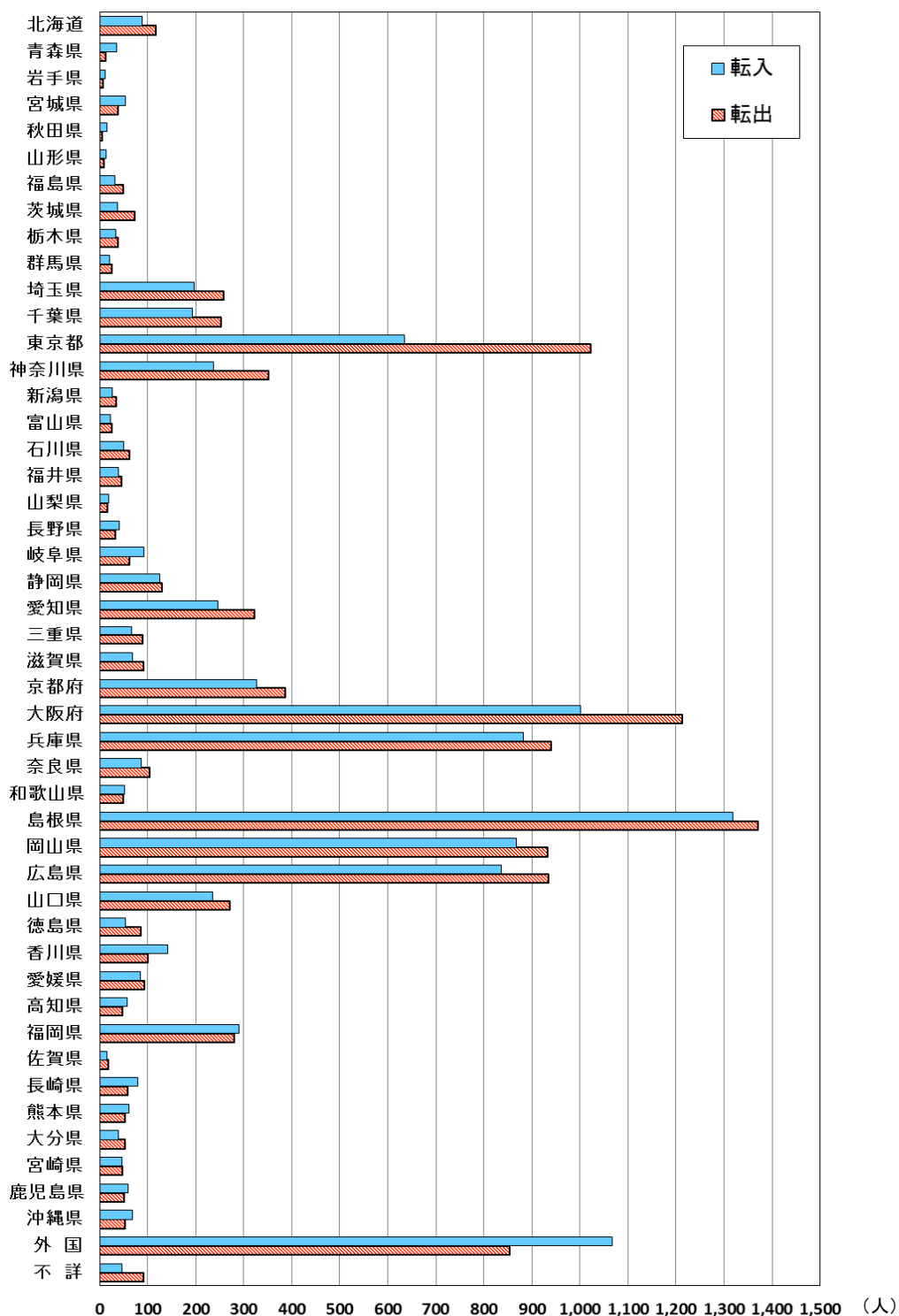
県外転出は、島根県が1,371人と最も多く、次いで大阪府が1,213人、東京都が1,023人、兵庫県が941人、広島県が935人、岡山県が632人などとなっている。

この結果社会増減数は、香川県が40人増加と最も多く、次いで岐阜県が29人、青森県が22人、長崎県が21人、沖縄県が16人などとなっている。

一方、減少数については、東京都が388人と最も多く、次いで大阪府が211人、神奈川県が114人、広島県が98人、愛知県が77人などとなっている。

外国をみると、転入が1,067人、転出が854人で213人増加となっている。（図9、統計表第6表）

図9 地域別県外転出入者数—H28.10～H29.9



(4) 年齢5歳階級別社会動態

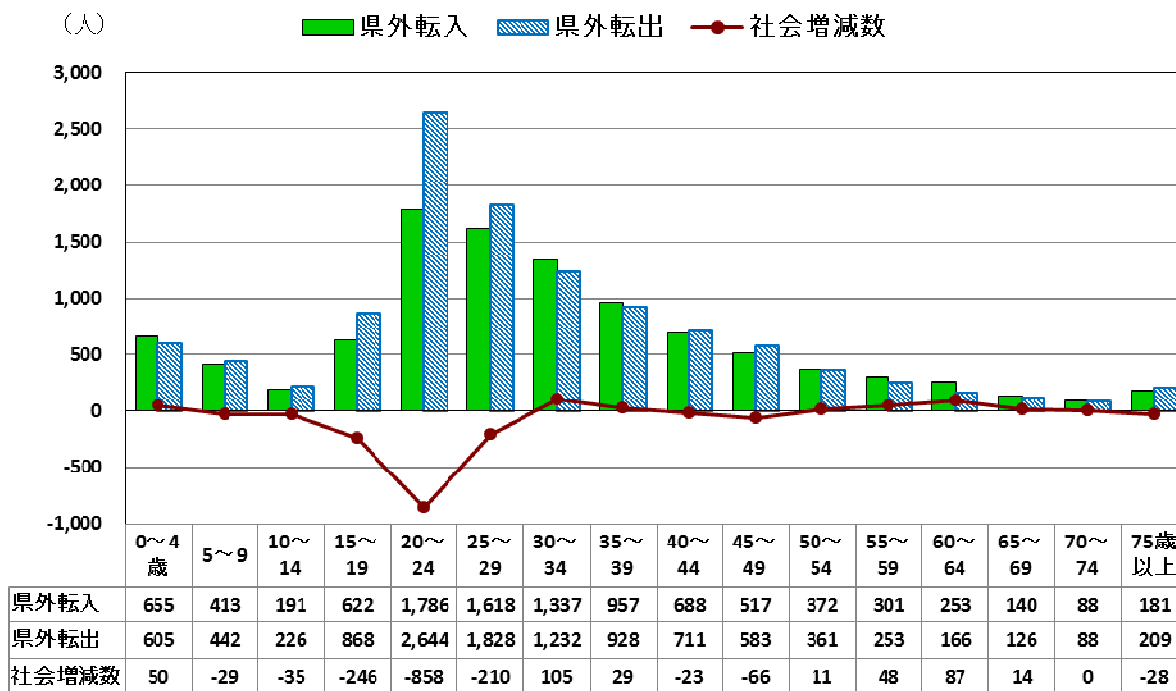
30～34歳が増加し、20～24歳が最も減少

社会動態について、年齢5歳階級別にみると、県外転入は20～24歳が1,786人（県外転入総数に占める割合17.6%）と最も多く、次いで25～29歳が1,618人（同16.0%）、30～34歳が1,337人（同13.2%）などとなっている。

県外転出は、20～24歳が2,644人（県外転出総数に占める割合23.5%）と最も多く、次いで25～29歳が1,828人（同16.2%）、30～34歳が1,232人（同10.9%）などとなっている。

この結果、30～34歳が105人増加し、20～24歳が858人と最も減少、20～34歳で年間実移動者総数の48.9%を占めている。（図10、統計表第7表）

図10 年齢5歳階級別県外転出入者数 — H28.10～H29.9



(5) 市町村別社会動態

岩美町、湯梨浜町及び日吉津村で増加し、その他の市町では減少

社会動態について、市町村別にみると、岩美町、湯梨浜町及び日吉津村で増加し、その他の市町では減少となっている。

湯梨浜町が64人と最も減少し、次いで岩美町が44人、日吉津村が33人となっている。減少数については倉吉市が298人と最も多く、次いで鳥取市が279人、境港市が155人、八頭町が114人などとなっている。

社会増減率は日吉津村が9.4%と最も高く、次いで岩美町及び湯梨浜町が3.9%となっている。減少率については日南町が17.7%と最も減少し、次いで八頭町が6.9%、倉吉市及び伯耆町が6.2%、若桜町が5.8%などとなっている。（図11、図12、統計表第4表）

图11 市町村別社会増減数

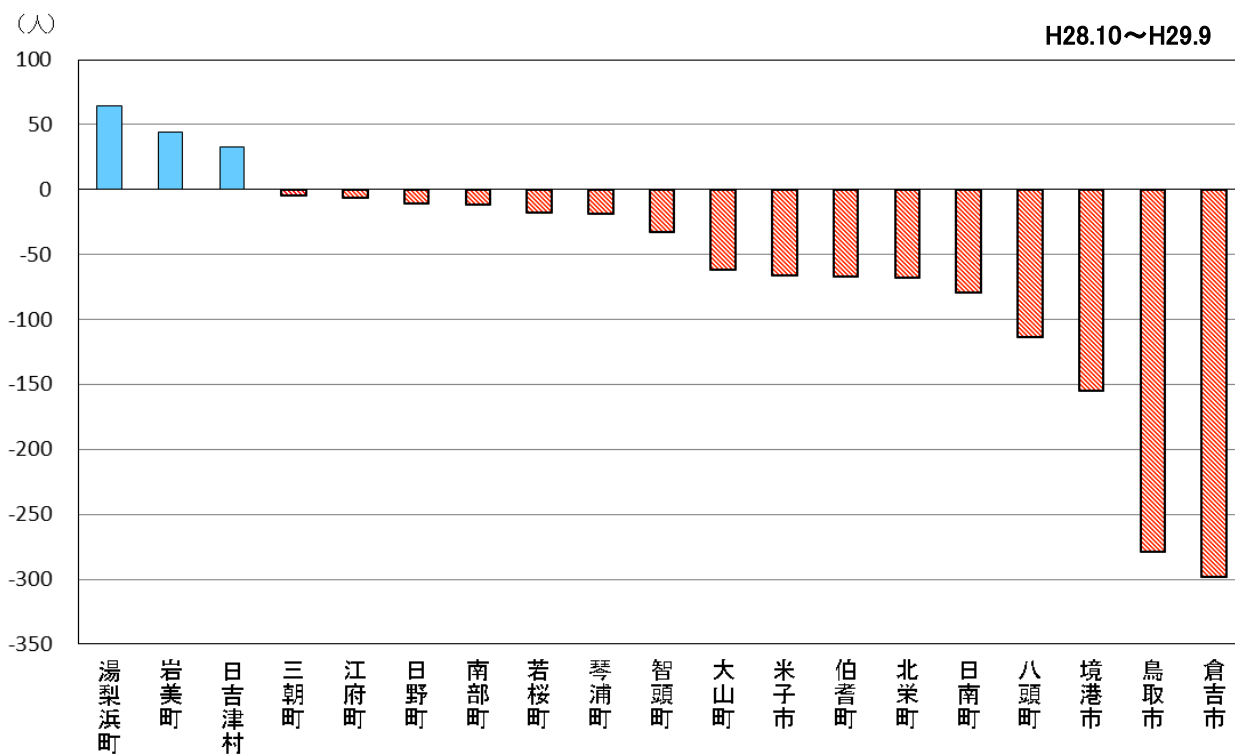


图12 市町村別社会増減率

